

「緑の豊かさ」と木の文化がもたらす癒しと安心感。地域に愛される病院」

(1) 地域の人々の安全・安心を支える施設の提案

① 過疎化や高齢化が著しい奥会津地域において、使いやすさ、分かりやすさへ配慮した、利用者の安全・安心を支える施設の提案

ユニバーサルデザインの考えに基づいた環境整備を行います。

- 1. 身体的弱者用駐車場は、エントランスに近接させ雨にぬれないで風除室に誘導できるようにします。また、駐車場の表記は国際シンボルマークだけでなく、一時的なけがを負った人や妊婦さんにも使いやすいようにピクトグラムにて誘導いたします。
- 2. 外来者（診療・健診（検査）・リハビリ）を一つにゾーニングとして、分かりやすく動線を単純化させます。また、床の色を変えて誘導できるようにします。廊下には手すりを設け、点字ブロックを設置します。
- 3. トイレは、個室には両側に手すり、ペーパーホルダーを設け利用者が選択して使用できるようにします。小便器にはもたれかかれるように手摺を設置し、幼児用の小便器も設けます。また、多機能トイレを設け、体に障がいを抱える人、乳幼児連れ、オストメイト、LGBTQなど様々な人が使えるようにします。
- 4. 各室名札も文字を大きく、さらに文字のみでなくピクトや写真なども併用し分かりやすくします。デジタルサイネージの採用も検討します。

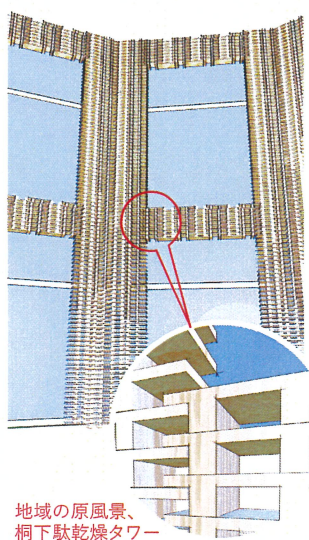
② 地域生活を支えるための在宅医療や、診療圏唯一の入院機能を持ち、救急患者の対応が可能な医療機関として、地域に密着し、開かれた施設の提案

- 1. 待合スペースの半円の筒状のカーテンウォールが、外部への開放感を高めます。建物内の様子が見えることにより気兼ねなく受診できる雰囲気を演出します。
- 2. 建物正面に植栽をし、気軽に散策や休憩できるような公園として整備します。外来者の癒しの空間となり、入院患者にとっても身近な緑を眺望でき、遠景の山並みと一体になって治療効果を高めます。地域の小学生等の校外学習の場としても活用でき、子供たちに地域医療や、医療という職業に興味を持ってもらうきっかけになります。

(2) 奥会津地域の特性と調和し、特別豪雪地帯を考慮した施設の提案

① 周囲の緑豊かな自然と調和し、温もりや安らぎ等が感じられる内観・外観デザインや構造に関する提案

- 1. 待合スペースの半円の筒状のカーテンウォール吹き抜けの中に地域の原風景の桐下駄の乾燥タワーを取り入れます。季節や時間によってさまざまな陰影を室内に作ります。
- 2. 地域の木材を内装に積極的に利用し、廊下やエントランス、デイルームなど共用部分で、天井ルーバーや壁などで多く採用します。桐を原料とした壁紙もポイントで利用いたします。
- 3. 屋根は無落雪とするため、陸屋根とします。外壁の色は、周辺環境になじむように茶系のアースカラーとします。また、2階南側の病室の窓廻りに日射遮蔽の小庇と袖壁を設けることにより、単調にならずリズム感のある外観を表現できます。
- 4. 構造は、厳しい自然環境を考え、鉄筋コンクリート造とし外断熱を行います。求められる耐火性能を低コストで実現でき、設計耐久年数を「長期」として設計することにより長寿命化を図り二酸化炭素排出量削減とトータルコストの削減につながります。



地域の原風景、桐下駄乾燥タワー

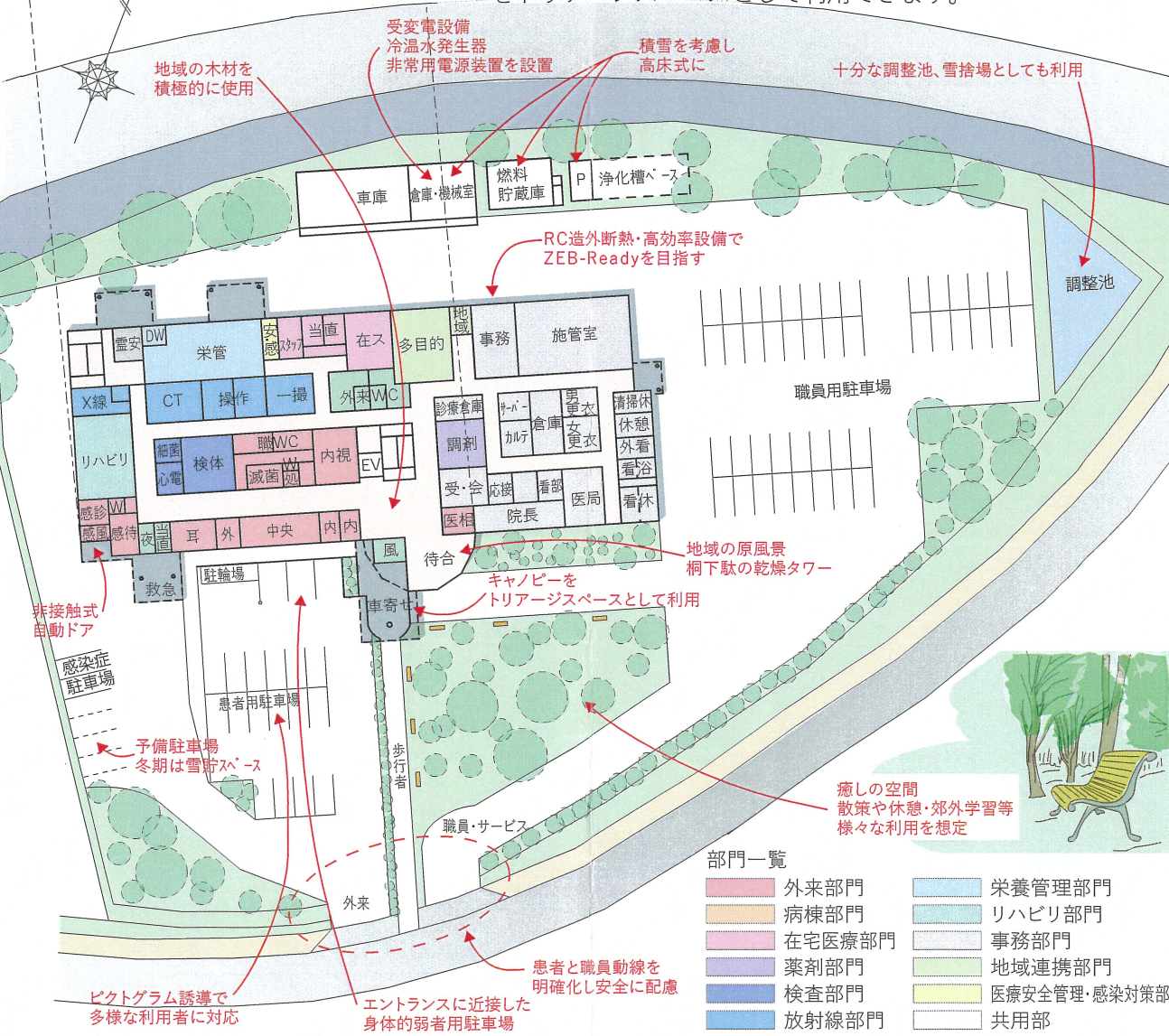
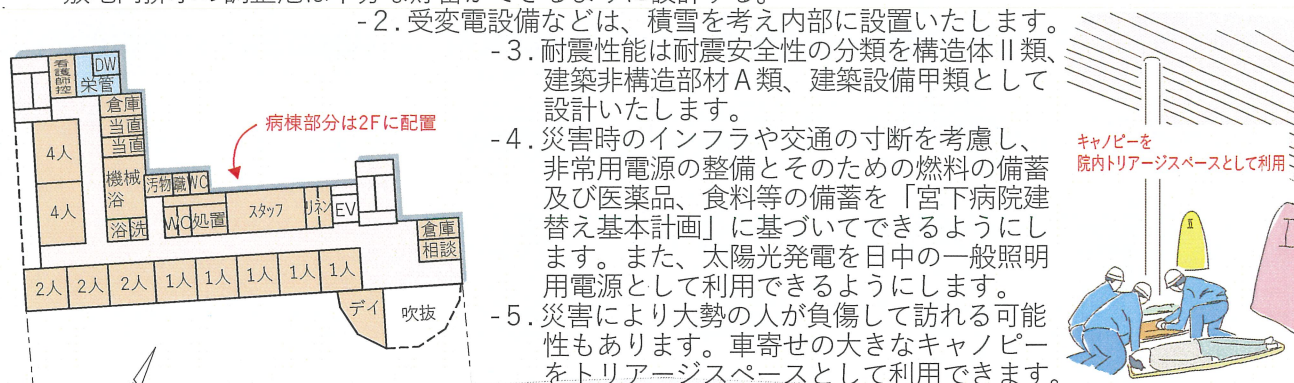
② 特別豪雪地帯である奥会津地域の降雪や積雪を考慮した施設の提案

- 1. 駐車場は融雪設備を設けます。また、除雪した雪を調整池に重機で排雪できるように調整池を開放できるようにします。
- 2. 建物からの落雪被害を出さないように屋根は陸屋根とします。雨どいには凍結防止対策をいたします。

(3) 災害や感染症に強い施設の提案

① 奥会津地域における医療の拠点となるよう、豪雨、豪雪、地震などの災害発生時においても患者や職員の安全確保、通常と同程度の医療機能を維持できる災害に強い医療施設とする提案

- 1. 建設地の地盤が高いため浸水の恐れは低いと思われるが、近年続発するゲリラ豪雨に対しては、西側隣地が建設地より高いことから、雨水の流入が考えられる。境界付近に雨水側溝を設け対応することとする。敷地内排水の調整池は十分な貯留ができるように設計する。



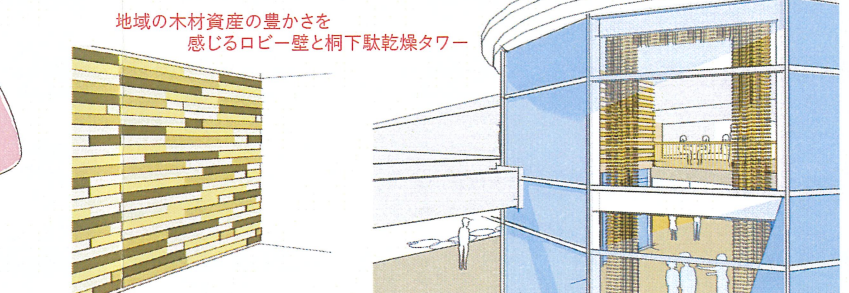
② 感染症の発生に備え、感染症患者の受入れを十分に考慮し、感染拡大時にも、通常と同程度の医療提供ができる施設の提案

- 1. 感染症の恐れのある外来者専用の駐車場を感染症外来風除室の近くに設けます。
- 2. 感染症診察エリアの引き戸は非接触式自動ドアとし、室内を陰圧状態に保ちます。
- 3. 病室の感染症患者対応用の個室は、スタッフステーションに近接し、非接触用の自動ドアを採用し、陰圧状態を保ちます。
- 4. エレベーターのボタンも非接触式とします。
- 5. トイレの入り口はドアレス、衛生器具類は自動水栓とし、ハンドドライヤーを設け非接触で利用できます。
- 6. 一時的な感染症患者の増大などに備えて、リハビリ室内に非常用の医療ガス設備を配管しアウトレットを設けます。陰圧設備も設けます。

(4) 県産材の積極的な活用やエネルギー性能が高く持続可能性に優れた施設の提案

① 本県の森林資源の活用や、消費エネルギーの抑制等に配慮した施設の提案

- 1. 地元で生産される様々な木材をロビーの壁に用います。杉・桐・板屋楓、栗、樺などボーダー状に加工し貼り付けます。木目の美しさと樹種の違いから地域の木材資源の豊かさを感じてもらえ、来院した人にも地元木材の良さを発信できるようにします。
- 2. 鉄筋コンクリート造に屋根、外壁は外断熱とし、窓の断熱性を高め、高効率の設備の採用によりZEB-Readyを目指します。
- 3. 太陽光発電の設置も検討します。



② イニシャルコストやランニングコストに配慮した施設の提案

- 1. 現況地盤から、計画地盤高をあまり変えることなく計画し、土工事に係るコストの低減を図ります。
- 2. 鉄筋コンクリート造にすることにより、近年値上がりしている石膏ボードを多用することなく耐火構造が実現します。
- 3. 鉄筋コンクリート造にすることにより長寿命化を図り、二酸化炭素排出量削減とトータルコストの削減につながります。
- 4. 特別豪雪地帯の冷暖房として別棟の機械室に冷温水発生器を設置します。冷温水を利用して天井放射式冷暖房を採用することにより、気流を感じさせない快適な環境を作り出します。送風に係る搬送動力に比べランニングコストを低減できます。冷房時に使われる水温は地下水の温度と同程度、暖房時に使われる水温は太陽光を活用した加熱が可能のため、自然エネルギーの活用も容易になるため検討いたします。

(5) 将来的な施設の変異性に関する提案

① 医療制度改革や医療技術の進歩、医療ニーズ等の将来的な変化に柔軟に対応できる施設の提案

- 1. 水回り、廊下は1階は、配管ピット、2階は2重床とし、天井裏の配線、配管スペースを確保し、配管ルートがわかりやすいようにします。部屋の用途変更に伴う設備更新、配管替えを容易にできるようにします。

② 将来的な病床機能の転換等、変異性を考慮した施設の提案

- 1. 純ラーメン構造にすることにより、比較的楽に間仕切壁の変更が行えるようにします。
- 2. 病室の棚は家具式として容易に取外し再設置できるようにします。

(6) その他の提案

上記の他、本施設の整備において、特に重要と考える課題があれば、参加者独自の提案

建築においても基本理念の「私たちは、地域社会に密着した心ある医療を提供します。」を大切に、表現していきます。そこから地域住民がこの病院に愛着と誇りを感じてもらえ、同時に、地域に暮らす安心感と、地域医療をみんなで支えるため気運を醸成していけたらと思います。

- 1. この地の景観と緑豊かな自然環境を大切に、余剰スペースにふんだんに植栽します。入院患者、外来患者、医師、看護師、職員、地域の人々に安らぎと癒しを提供します。また、二酸化炭素の吸収にも寄与します。
- 2. 内装に地元の木材を利用し、地域の森林資源の豊富さと木材利用の文化を発信します。また、二酸化炭素の固定化に寄与します。

受付番号

※ /

部門一覧

外来部門	栄養管理部門
病棟部門	リハビリ部門
在宅医療部門	事務部門
薬剤部門	地域連携部門
検査部門	医療安全管理・感染対策部門
放射線部門	共用部